


## リサーチグループ登録届出書

平成24年1月27日

## 1. グループの概要

グループの名称	陸域環境研究グループ
分野名	理工系
設置場所	陸域環境研究センター
設置予定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日

## 2. 研究代表者

所属・職名	生命環境系・教授(陸域環境研究センター長)
(ふりがな)	まつおか のりかず
氏名	松岡 憲知 

## 3. 連絡先

所属・職名	生命環境系・教授(陸域環境研究センター長)
氏名	松岡憲知
電話	4540
FAX	4540
E-mail	matsuoka@geoenv.tsukuba.ac.jp

## 4. 担当部局(当該グループの運営等を管理する部局名)

生命環境系

グループ名	陸域環境研究グループ				
グループ名(英語)	Terrestrial Environment Research Group				
分野	参考: 1. 人社会系、2. 理工系、3. 生物系、4. 複合系のうち、該当の番号を記載してください。				2
科研費細目番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		2001	4402	1901
キーワード(5つまで)	環境	熱収支	水循環	地表変動	気候変動
キーワード(英語)	Environment	Heat balance	Water cycle	Earth surface processes	Climate change
グループのHP:URL	http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/				
代表者名(英語)	Norikazu Matsuoka				
研究組織					
氏名	所属機関	職名 (任期)	専門分野	学位	役割分担
松岡憲知	陸域環境研究センター	教授	地形学	理学博士	グループ代表者
浅沼 順	陸域環境研究センター	教授	水文気象学	Ph.D	データアーカイブ・公開
山中 勤	陸域環境研究センター	准教授	水文学	博士(理学)	熱収支・水収支観測
関口智寛	陸域環境研究センター	講師	堆積学	博士(理学)	大型水路・水理実験
若月泰孝	陸域環境研究センター	助教	気象学	博士(理学)	気象モデリング
若狭 幸	陸域環境研究センター	特任助教(H25.2.15)	地形学	博士(理学)	大型水路・水理実験
鈴木智恵子	陸域環境研究センター	非常勤研究員(H25.3.31)	気象学	博士(理学)	熱収支・水収支観測
脇山義史	陸域環境研究センター	非常勤研究員(H26.8.31)	水文学	博士(理学)	地球環境再生プログラム
グループ概要(100字程度)					
熱収支・水収支観測、水理実験装置による地形変化実験など、「陸面基礎過程」についての研究を行う。また、アジア大陸各地や中部山岳地域に自動気象・水文・土砂移動観測装置を設置し、流域あるいは大陸規模における水、二酸化炭素、土砂等の物質循環のモニタリングを行う。					
グループ概要(英語)					
This research group aims to study basic processes of terrestrial environments. The major studies using the facilities at the Terrestrial Environmental Research Center include continuous monitoring of heat and water balances and laboratory experiments of earth-surface dynamics. Field observations are also undertaken in the Asian countries and Japanese Alps region, in an attempt to evaluate water, sediment and chemical cycles at scales from watersheds to a continent.					
設置の目的及び必要性					
最近、日本列島周辺における地殻変動の活発化、異常気象の顕在化や気候温暖化の進行やに伴って、集中豪雨、地震、山崩れ、土砂流出、河川氾濫、津波、高潮等の自然災害が頻発するようになり、予知と対策が強く求められている。気候変動は、世界の乾燥地域や寒冷地域での水資源問題や地盤災害を引き起こしている。このような自然環境変動は、地球規模から地域・流域規模にわたる様々な空間スケールで理解し、その人間環境への影響を評価し、対処する必要がある。陸域環境研究センターでは、自然環境変動の影響を受けやすい地球上の「脆弱地域」を主対象とし、「実験・観測・モデリング」の手法を駆使して「環境変動のダイナミクス」、とくに「大気-陸域間および山から海までの水・物質輸送とその自然・人間圏との相互作用」の研究を推進する。					
研究計画					
5年間に、以下の事業を推進する。 (1) 熱収支・水収支に関する長期観測の継続するとともに、データを公開する。 (2) 斜面・河川・海域における土砂移動・堆積現象に関する実験的研究を推進する。 (3) 中部山岳自然環境変動に関する大学間連携拠点として機能するとともに、連携研究を推進する。 (4) アジア乾燥地域の水資源研究を推進する。 (5) つくば市における次世代環境教育を推進する。					
研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
(1) 気候変動・気象事象に連動する地表環境変動に関して、環境保護や防災の観点から現状評価と将来予測を行い、諸問題の解決に貢献する。 (2) 水理実験施設を利用した地形変化のモデル実験や中部山岳地域での気象・水文・土砂移動の観測は、日本列島の地震や豪雨に伴う自然災害の予測と対策に貢献する。 (3) 世界の乾燥地域の水資源問題や世界の陸域寒冷圏の地盤変動の研究は、地球システムの現状把握と将来予測に貢献する。 (4) つくば市との協力による小中学生の環境教育プログラムの推進等は、一般社会の啓蒙活動に果たす役割が大きい。 (5) 実験・観測的研究拠点、異分野交流拠点、国際共同観測拠点、環境教育拠点としての機能が期待される。					